

はじめに

本市では、小田急線4駅周辺をはじめとする都市基盤と四季折々に豊かな表情を持つ丹沢の山々といった恵まれた環境の中、総人口は昭和50年（1975年）に10万人、平成21年（2009年）には17万人に達し、バランスよく様々な世代が生活することで、市全体が調和のとれた都市として成長してきました。



今、我が国では、多くの自治体が急激な人口減少と高齢化、また非常に厳しい財政状況という共通の課題を抱えています。本市も例外ではなく、総人口は平成22年（2010年）をピークに減少に転じ、今後も減少傾向が続くと予測されていることから、将来にわたり暮らしよい生活を維持することが課題となっています。

このような人口減少・超高齢社会といった新たな時代を展望した持続可能なまちづくりに取組むため、医療・福祉・商業等の生活に必要な機能を都市の拠点周辺に誘導し、交通ネットワークによりその拠点間の連携を図るコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を基本に、高速道路インターチェンジの開通によるまちづくりへの好機や地域の特性を踏まえた秦野らしい立地適正化計画を策定しました。

今後はこの立地適正化計画により、子どもからお年寄りまであらゆる世代が安全・安心・快適に暮らせる生活環境の実現や効率的な行政運営を目指し、持続可能な魅力あふれるまちづくりを進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、本計画の策定に当たりご尽力賜りました秦野市都市計画審議会委員の皆さま、早稲田大学理工学術院森本章倫教授をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆さま、多くの貴重なご意見をいただきました市民の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和2年（2020年）4月

秦野市長 高橋昌和

